

事務事業評価の結果を

お知らせします

岡総務課行政総務係 ☎ 6719

〽平成25年度実施の106事務事業を評価し、
今後の方向性について検討〽

市では、効率的で質の高い、市民の視点に立った成果重視の行政運営を実現するとともに、

今後の方向性について検討しました。

市民に対する説明責任を果たし、市政の透明性を高めるため、平成23年度より事務事業評価を導入しています。

また、市行政改革推進懇談会（座長 櫻田一雅十和田商工会 議所専務理事）の下部組織で、6人からなる外部評価専門部会（部会長 高井伸二北里大学獣医学部部長）において、第三者の視点から評価を行うことが有意義と考えられる4事務事業について、外部評価を行いました。

平成26年度は、第1次十和田市総合計画第2期実施計画に掲載されている事務事業の中から、平成25年度に実施された106の事務事業について評価を行い、

市民の目線で評価し、
報告書を市長に提出

2月10日、櫻田座長が市役所を訪れ、外部評価専門部会が昨年9月から10月にかけて評価作業を行った4事業（下記参照）の報告書を提出しました。

櫻田座長は「全委員が意見を述べ、事業の必要性を再認識する結果となっています。今後の事務事業の改善に活用してください」と報告しました。

小山田市長は「ご指摘を踏まえ、見直すところは見直し、しっかりと取り組んでいきます」と話しました。



◀櫻田座長から提出された報告書に目を通す小山田市長

外部評価対象事務事業の評価結果と今後の対応方針

外部評価対象事務事業名 【担当課】	内部評価による 方向性	外部評価を踏まえた今後の対応方針	
		方向性	取り組み内容
老人クラブ活動支援 【高齢介護課】	現状のまま 継続	有効性を改善して継続	<ul style="list-style-type: none"> ▶老人クラブによる地域貢献活動を進めるために、老人クラブの活動と町内会活動が連携できるよう支援していく。 ▶会員による住民への声掛けや見守りなどの活動を推進するために、全国的な活動例を連合会に提案し、会員の地域貢献活動に対する意識の向上を図っていく。 ▶活動の活発化を図るために、各年代に適した活動の構築に向け、現状の課題と対応策を検討していく。
包括的支援事業 【高齢介護課】	効率性を改善して継続	有効性を改善して継続	<ul style="list-style-type: none"> ▶在宅介護支援センターと地域包括支援センターの役割分担を明確にし、相談者へ速やかに対応・支援する。 ▶虐待などの困難事例に対して関係者間で連携した対応をするために、地域ケア会議の開催を拡大するなどネットワーク体制を構築する。 ▶支援状況や結果を数値化し、検証する。また、検証を基に課題を洗い出し、対策を講ずる。
農畜産物のブランド化 【とわだ産品販売戦略課】	さらに重点化を図る	さらに重点化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ▶産・学・官により構成される「十和田産品販売促進会議」の活用や市内関係機関などとの連携、日本野菜ソムリエ協会と連携した取り組みをさらに強化するとともに、主要4野菜はもとより奥入瀬ガーリックポークや十和田湖和牛、十和田湖ひめますのブランド力の向上を図り、販売促進を実現する。 ▶首都圏の著名レストランでの食材利用拡大など「食」と「農」を結び付けた事業展開や、メディアを活用した情報発信などにより、十和田産品の認知度を高める。
中心市街地活性化事業 【商工労政課】	有効性を改善して継続	有効性を改善して継続	<ul style="list-style-type: none"> ▶中心市街地活性化基本計画の計画期間は平成27年3月で終了となるが、今後も、コンパクトなまちづくりに向けて、本計画の評価検証を踏まえ、中心市街地に集積している現代アート・文化施設や、公共施設などを有効に活用し、交流人口や居住人口が増えるよう誘導することによる、中心市街地の活性化を図る必要がある。 ▶官民一体となった魅力ある商店街づくりに向けた取り組みや、新たな事業の掘り起こしなどを推進していく。

※評価方法などの詳細については、市ホームページに掲載しています。

十和田市 26年度 事務事業評価

検索